**児童生徒の熱中症に関する報告書**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　年　　　月　　　日

学 校 名・報告者名

市町村名・報告者名

事務所名・報告者名

|  |  |
| --- | --- |
| 1.発生日時 | 令和　　　年　　　月　　　日（　　　）　　　時　　　分 |
| 2.学 校 名 |  | 校 長 名 |  |
| ふ り が な3.氏　名 |  | （　　　）年　□男　・□女※高等学校（　　　　　　）科※特別支援学校 □小学部 □中学部 □高等部 |
|  |
| 4.健康状態 | □ 良好　□ 不良（　　　　　　　）　□ 不明 | 活動時のマスクの着用　□ 有　□ 無 |
| 5.※傷病程度 | □最重症　　□重症　　□中等症　　□軽症　　□その他（　　　　　　　　　　　　　　） |
| 6.発生状況等 | 時間 | □ 登下校　　　　　　　　　　　　　　　□ 授業　（教科名　　　　　　　　　　　　）□ 部活動（部活名　　　　　　　　　）　□ 行事等（行事名　　　　　　　　　　　　）□ 休憩時間　　　　　　　　　　　　　　□ その他（　　　　　　　　　　　　　　　） |
| 場所 |  |
| 環境 | 気温 | ℃ | 湿度 | ％ | ＷＢＧＴ | ℃ |
| 7.救急搬送 | □ 無　　□ 有　　時　刻：　　時　　分　　　搬送先：通報者：　　　　　　　　　帯同者： |
| 8.保護者連絡 | 　□ 済　 　□ 未 （ 予定日時： ） |
| 9.発生状況等　※時刻や対応、対応者、報告書作成時点の児童生徒の容体（健康状態）等を明記すること。 |
| 【市町村（組合）教育委員会が回答】　　報道への情報提供　　□ 行わない　　□ 行う（行う場合、早急に教育事務所へ連絡すること） |

※傷病程度は医師の診断による症状を記入。複数の生徒を記載する場合は、3～5について記載した別紙を添付してもよい。

**〔裏面についても必ず記入〕**

以下は、熱中症予防のため、学校の対応を見直し、日常的に措置を講ずる必要があるものを再確認するものです。

|  |
| --- |
| 10.熱中症予防のための学校対応（当てはまるものに☑または■）□　暑熱環境での活動の中止、内容や活動場所変更の判断と伝達方法を策定し、教職員間で共有している。□　熱中症発生時（疑い含む）に、躊躇なく救急要請や全身冷却、ＡＥＤ使用等ができる体制を整備している。□　教職員への熱中症予防の研修を実施している。□　体調が不調の児童生徒が、ためらうことなく教職員に申し出ることができる雰囲気が形成されている。 |
| 11.今回の活動において講じていた熱中症対策（当てはまるものに☑または■）　⑴　活動環境の確認□　活動開始前にＷＢＧＴを測定した。□　活動中にＷＢＧＴを測定した。（測定回数　　　回）□　ＷＢＧＴを基に活動内容や場所、実施時間等の変更を行った。（変更前：　　　　　　　　　　変更後：　　　　　　　　　　　）□　こまめな換気や打ち水、テントや遮光カーテン、すだれの使用等、気温が上がりにくい環境を確保した。□　扇風機やエアコン等を使った湿度調整を行った。　⑵　児童生徒に対しての指導□　活動開始前に体調不良を訴える児童生徒の把握を行った。□　通気性の良い、吸湿・速乾の衣服の着用を促すなどの指導を行った。□　マスクの着用について、熱中症事故の防止に留意した指導を行った。□　日射を避けるため、日傘使用や帽子着用の励行などの指導を行った。□　保冷剤、氷、冷たいタオル等による体の冷却の指示や時間を確保した。□　活動時のこまめな休憩の指示や時間を確保した。□　活動時とその前後でのこまめな水分補給の指示や時間を確保した。□　活動後のクールダウンの時間を十分に確保した。□　（登下校時等のみ）できるだけ単独行動を短時間にするような指導をした。　⑶　その他講じた措置、実施した指導がある場合は、以下に記入すること。（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| 12.　今回の活動を実施すると判断した理由 |
| 13.　今後、学校として講じる対策 |
| 14.　保護者への対応及び保護者の反応 |
| 15.その他特記事項 |

◇注意事項

　※１　熱中症を把握した時点で速やかに第一報を提出すること（手書でもよいがPDFで提出すること）

※２　重大事故に発展した場合は、後日、時系列にまとめ、報告書（任意様式）を提出すること